

異色の企業、太陽インダストリーアフリカ

## アニメと農業を二本の柱に



草の根支援学校の子どもたちも「ろぼとアトム」を楽しんだ

## 情操教育と雇用創出に期待

(株)太陽インダストリーアフリカ(東京都文京区)は、ナイジェリアで日本のアニメを24時間、無料で放送する「太陽チャンネル(仮称)」を来年3月に開局しようと奔走する貿易商社だ。チャンネルズTVという現地の民間テレビ局と提携し、同局のデジタル放送枠を借りて放送する計画だ。開局に先駆け、昨年夏からは一部の時間帯でアニメの無料放送を開始している。さらに、同社は小学校を回ってアニメを上映し、テレビを持っていない低所得者層の家庭の子どもたちに日本のアニメを届ける取り組みも行っている。去年は首都アブジャにある現地日本国大使館の草の根・人間の安全保障無償資金協力で建てられた小学校など2カ所で上映したほか、今年是国内10カ所の学校を回る予定だ。

同国のテレビ普及率は、2013年時点で30%程度(同社調べ)と低く、子ども向けの教育番組やアニメなどのコンテンツも少ない。しかし、代表取締役社長を務める伊藤政則氏は、「アフリカ最大の人口と経済規模を持つこの国では、テレビの普及率やコンテンツ需要の今後の伸びしろは大きい」と見ている。実際、海賊版の流通やYouTubeを通じて日本のアニメの人気は高まっている。さらに、日本のアニメはあいさつや友情の大切さなどを訴えるメッセージ性の強いものが多いため、太陽チャンネルによって情操教育も進むと期待されている。

同社は、太陽チャンネルの視聴を無料にする代わりに、アニメの合間に日本企業のコマーシャルを流して広告収入を得るというビジネスモデルを目指す。

将来的にはテレビ放送だけでなく、現地でのオリジナルアニメ制作やアニメ学校の運営も手掛ける予

定だ。すでに現地の人材育成も始めており、12年には現地から制作担当者3人を日本に招き、当時、(株)手塚プロダクションと(株)読売テレビエンタープライズが共同で制作していたアニメ『ろぼっとアトム』(写真参照)の制作現場に3カ月間、研修生として送り込んだ。『ろぼっとアトム』は完成後、ナイジェリアで放送された。これら取り組みが本格的に始動すれば、情操教育への効果のみならず、雇用の創出も期待され、同国でアニメという新しい産業が発展する可能性がある。

## BOP層と中間層を同時に攻める

しかし、同社がアフリカで最初に手掛けた事業は、アニメではなく農業だ。もともと日本の農家でコマ作りを学んでいた伊藤氏は、2010年、日本でナイジェリア人と知り合っ

たことから同国に興味を持ち、現地を訪れた際、赤茶けた大地や枯れた作物、そして人口の6~7割を占める農業従事者の多くが低所得者層である現状を目の当たりにして、農業分野でBOPビジネスを立ち上げようと思い付いたという。しかし、アフリカにおけるBOPビジネスは、資金を回収できないリスクが高いため、収益性の高い中間層以上をターゲットにした冒頭のアニメ事業にも着手したのだ。

農業事業として伊藤氏が手掛けているのは、アフリカ各地に事務所を持つ国際熱帯農業研究所(IITA)と連携したヴェルデナイトの普及・販売だ。ヴェルデナイトとは、ピートモスと呼ばれる水ゴケ

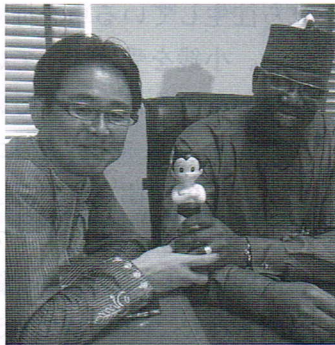


養殖ナマズのサイズを確認する伊藤氏

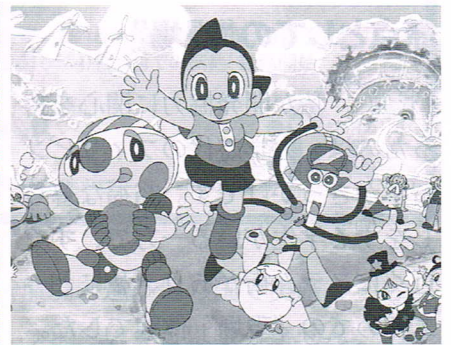
にモンモリロナイトという粘土鉱物をコーティングした環境資材のことで、日本では(株)ヴェルデが特許を持っている。保水性や保肥性に優れ、砂地でさえ栽培可能な土壌に改良できる。現在は日本から輸入しているが、



研修の様子。最初は鉛筆の持ち方、削り方もままならなかった



チャンネルズTVのジョンモモ社長(右)「ろぼっとアトム」は「鉄腕アトム」のリメイク版として制作された



ゆくゆくは現地生産に移行する計画だ。

その一方、伊藤氏はナイジェリアの内陸部で、同国では高級魚として需要が高いナマズの養殖プロジェクトにも取り組んでおり、現地の人材を育てつつ、地元に適した養殖技術の研究を進めている。内陸部は新鮮な魚が手に入らないため、養殖技術の確立は栄養素の確保という観点からその重要性は高い。また、周辺で農作物を栽培すれば、その養殖用の池の水を乾期に利用したり、ナマズの糞尿を肥料として使うなど、再利用もできる。

ただ、農業とアニメの両輪で事業を行うことのメリットは、リスクマネジメントという側面だけではない。農業従事者の所得水準が向上すれば、長期的に見ると彼らは将来、同社のアニメ事業の顧客になる可能性がある。そして、伊藤氏の描くビジョンはさらに広がる。「所得水準が向上し、就学率が上がれば、子どもたちの進路や生き方も多様化する。日本の子どもたちがアニメを見て成長したように、彼らも日本のアニメから夢や希望などさまざまなことを学んでほしい」。伊藤氏はそう言うと、アニメに目を輝かせる子どものように微笑んだ。